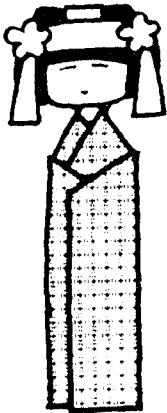


尾県郷土資料館特別展 九州・四国・中国地方の 郷土玩具展

今回は、昨年の東北地方に続いて、九州・四国・中国地方の郷土玩具約100点を展示します。

郷土玩具の所蔵者は、奥隆行氏（都留市文化財審議会委員・郷土研究会副会長）で、30年前から旅行などの折りに収集された貴重なものです。



郷土が培ってきた土のぬくもりと、そこに住む人々の暮らしを感じていただきたいと思えます。

日時 5月14日(土)
15日(日)
午前10時～午後4時
場所 尾県郷土資料館
問合先 市社会教育課

28日	鬼子母神祭	信行寺
16日	観音さま例祭	長安寺
15日	つる子どもまつり	都留文科大
13日	儀秀稲荷大祭	西涼寺
8日	花まつり	耕雲院
5日	端午の節句	市内各地
	石船神社例祭	石船神社

ふるさとの



五月

能力開発講座

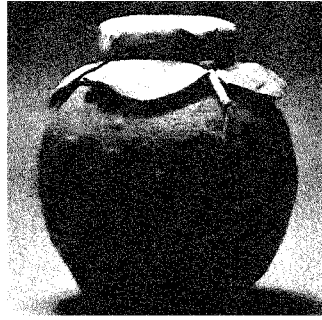
商業簿記の基礎	日程 6月6・7・9・10・13・14・16・17日(8日間)	定員 15人 受講料2000円
シーケンス制御の基礎	日程 6月13・14・16・17・20・21日(6日間)	定員 20人 受講料2000円
コストダウンのためのIE手法	日程 6月24・27・28・30日 7月1日(5日間)	定員 20人 受講料2000円

※時間はいずれも 午後6時から8時50分

御茶壺道中その二

内藤 恭義

なぜ茶壺道中が行われたか
茶種を最初に日本へもたらしたのは、僧空海とされていますが、研究が進んで最近では、遣唐使、僧永忠が八〇五年、帰国に際して持ち帰ったという説が定説化しています。



鳴物茶壺

はじめは薬用として用いられたとされますが、禅宗の開祖茶西が、禅道の普及に茶の湯をとり入れておりますので、平安時代の終り頃には既に飲用として普及していたことがわかります。
佗茶の開祖とされる千利休によつて、茶道が確立されたのですが、豊臣秀吉が黄金の茶室を造つたことでも解るように、当時の貴族や特に大名たちの茶の嗜みは異常なものでありました。
今でも茶道にかかわる人たちは、お稽古や茶の道具揃え、あるいは茶室造りに多くのお金をかけますが、当時、まだ日本では製陶

技術が未熟であったため、茶碗をはじめ陶磁器は大変な貴重品でした。中でも、ルソンの壺で知られるように外国渡りの茶壺は、南蛮物とか鳴物とか呼ばれて、もてはやされました。
良い茶道具を揃えることは、当時の大名や豪商たちの権威を示すものでした。いうならば、富の象徴であり、宝物なのです。事実、当時の茶壺として残されているものは、重要文化財に指定されているものが多く、今でも優れた美術品ですが、当時の感覚としては、ミレーの絵やロダンの彫刻よりも高く扱われたと思つてよいでしょう。
本来、荷物として搬送されるはずの茶ですが、將軍家飲用の新茶を求めるために、將軍秘蔵の茶壺

を、わざわざ江戸城から運ばせ、護衛をつけての道中を編成した背景には、実は、宝物を護るといふことがあったのです。
目的は新茶を求めに行く道中ですが、実際には茶壺を護る道中なのです。ですから言葉の上でも、お茶道中ではなくお茶壺道中なのです。
運ばれる茶壺には、福海・日暮・旅衣・埋木・太郎五郎などと、一つ一つに名前がつけられている器ばかりです。陶器という性質上、取扱いは慎重を要することもある。保全には万全の注意が払われましたから、茶壺道中が権威があったとされるのも、將軍直用という理由だけではなく、壺そのものが貴重品であったという、取扱上の問題があったのです。

受付期間

各講座とも開講日の7日前まで、ただし、定員になれば締め切ります。

問合先 尾県都留能力開発センター
☎(43) 8911

訓練生募集

家屋営繕科

建築用電動工具、大工道具等の使用法と手入れ、建築における基礎的な造作材の加工や取付、建築施工作業、修繕・営繕作業、その他

訓練期間 6月7日～11月24日
対象者 離職者や転職希望者
で訓練修了後に建築関係の仕事に就こうとする人
申込・問合先 各公共職業安定所または都留能力開発センター

☎(43) 8911

サッカー少年募集

対象 小学校3年生

三吉サッカースポーツ少年団
申込先 監督 武井 靖
☎(43) 5873(午後8時以降)
練習日 月・火・木・土・日
玉川グラウンド

禾生サッカースポーツ少年団
申込先 監督 小笠原 一郎
☎(43) 4144(午後8時以降)
土・日曜日玉川グラウンドで三吉サッカースポーツ少年団と
いっしょに練習しています。